

祈り：信頼の道

片山はるひ（ノートルダム・ド・ヴィ）

<http://www.ndv-jp.org/>

(Notre Dame de Vie:Youtube チャンネル)

1) 祈りとは？

祈りとは、「自分が神から愛されていることを知りつつ、その神と二人だけで、たびたび語り合う親しい友としての交わりにほかなりません。」

(アビラの聖テレサ、教会博士)

2) 教皇フランシスコの使徒的勧告『信頼の道—聖テレーズ生誕 150 周年を記念して』カトリック中央協議会

- ・「まとめ」の聖人
- ・「彼女は福音を自分の内で一つにすることができたのです。それは、完全な信頼から始まり、他者へと完全に自分を与えることに結実しました。(...)

こうしてすべてが信頼によってつながります。わたしたちを愛へと導き、恐れから解放するのは、信頼です。わたしたちに自分自身のみを見つめないようにさせるのも信頼です。神にしかできないことを、神のみ手にゆだねさせてくれるのも信頼です。

こうしてわたしたちは兄弟姉妹のためによきことを探し求めるための 必要な力と奔流のような愛を受けるのです。(...) 確かに結局、大切なのは愛のみです。」(第 44- 45 項、36-37 頁)

3) 信頼を妨げるもの：うたがい、不信、恐れ

- ・神への根本的な信頼がなければ、祈ることは困難である。悪循環から好循環へ。
- ・太宰治の悲劇、裁く神しか知らず、ゆるす神を知らなかった。
「自分は神にさえ、おびえていました。神の愛は信ぜられず、神の罰だけを信じているのでした。信仰。それは、ただ神の答を受けるために、うなだれて審判の台に向かう事のような気がしていたのでした。地獄は信ぜられても、天国の存在は、どうしても信ぜられなかったのです。」 (『人間失格』新潮文庫、97 頁)

信頼「ただ信頼のみ」がわたしたちを
すべてを与えてくださる神へと導くのです。
信頼によって恵みの源泉はわたしたちの
生活の中に注ぎ込まれ 福音はわたしたちの
血となり肉となり わたしたちを兄弟姉妹
のために 神のいつくしみを運ぶ運河へと
変えてくださるのです。
使徒的勧告『信頼の道』 教皇フランシスコ

4) 回勅「神は私たちが愛された（仮題 Dilexit nos）」イエス・キリストのみこころについての回勅

・わたしたちの神は人の「こころ」をもって愛される神。→受肉（incarnation）の意味。

「だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができますしょう？」（ロマ 8・35）

「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい。」「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」「わたしはあなたがたを友と呼ぶ」（ヨハネ 15 章）

・「自分自身と主との最も深い出会いは読書や熟考からではなく、生きて今ここにいるキリストのみこころと私の心が響き合う祈りの対話から来るもの。」（26 項）

J・H・ニューマン 「心は心に語る」（Cor ad cor loquitur）

35- 47 項 イエスの行いとまなざしとことば。聖書を黙想することの大切さ。

<マルコ 10・21、マタイ 9・36、ルカ 21・2、マルコ 8・2- 3、マタイ 11・28>

5) 信頼は、盲信ではない。

心の複眼視（神谷美恵子『生きがいについて』みすず書房、192 頁）

自分から出て、神のまなざしで見ること。

「心の深さというものを、心の世界の奥行きと考えることである。

視覚によって、ものの奥行きを認識できるのは目が二つあるからである。つまり二つの異なった角度から同じものを見ているから、自分からその物体への距離もわかるし、その物体そのものの奥行きもわかるのである。（…）

この「経験の深さ」、もしくは「経験のしかたの深さ」が心の深さをつくるのではなかろうか。いいかえれば、ひとの心に、二つ、またはそれ以上の世界が成立し、それぞれの世界から、各々べつな角度で同じ一つの対象をみるとしたら、この「心の複眼視」から、ものの深いみかたと心の奥行きがうまれるのではなかろうか。」

6) 信頼のダイナミズム

・「小さな足をあげてください」

→努力（自力）の必要性和神のいつくしみへの信頼（他力）

7) 信頼を深めるための具体的な提案

・聖書に親しむ。「聖書日記」のすすめ。翌日の聖書箇所を読み、心に響いた箇所を書き写す。

・短くても毎日祈りの時間を取る。心から心への祈り。射祷。

・黙想のすすめ。ロザリオの祈りも黙想の祈り。

・The Chosen : イエスとイエスに出会った人々のドラマのテレビドラマ視聴のすすめ。

「「The Chosen」をご存じですか？」で検索。末尾に視聴の仕方のガイドがあり。